

## 令和4年度～令和6年度 第4回山梨県図書館協議会 会議録

- 1 日 時 令和6年11月14日（木） 午前10時30分～正午
- 2 場 所 県立図書館 2階 多目的ホール
- 3 出席者 (敬称略)
- (委員) 雨宮実、河本毬馨、篠原弘照、神宮司易、塚田純子、中澤まゆみ、  
長谷川千秋、畑充仁、保坂なおみ、丸茂哲雄、横内陽子、吉井潤、
- (事務局) 県立図書館：小林副館長、土橋次長、齊藤司書幹、  
三枝資料情報課長、市川サービス課長、中江副主査
- (生涯学習課) 新井主任
- (指定管理者) 滝川支配人
- 4 会議に付した議案
- (1) 県立図書館の運営状況について
- (2) 令和4年度～令和6年度山梨県図書館協議会報告書（案）
- (3) その他

事務局 議長は、「山梨県附属機関の設置に関する条例」第6条第1項の規程により長谷川会長にお願いします。

議長 議題（1）（2）について事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料1、2について説明。)

議長 ただいま事務局から説明があった。前回までにいただいた意見をもとにまとめた資料について、それぞれの立場から質問、意見ををお願いします。

委員 全体的に今年も引き続き、充実した研修、イベント、展示を実施していると思う。今回は広報に力を入れるということで、二年間に渡り頑張っている。利用者アンケートでも、レファレンス・サービスを知らないと答えた利用者は軒並み減少し、効果が出ていると感じた。

質問としては、職員の手応えをお聞きしたい。広報はサービスを使ってもらうことを目的としている。いろいろな人から問い合わせが来るようになったなど、実際に職員の手応えがあったか伺いたい。

事務局 レファレンス・サービスについての手応えとして、利用人数が大幅に増えたとは感じていない。利用者はレファレンス・サービスという言葉は知らなくても、窓口にいる職員に意識せずに質問するため、あまり変化は感じないが、レファレンスのリーフレットについては、いろいろな目に付くところに置くようにしたため、利用者に多く手に取っていただいている。協議会で御意見をいただき、利用案内の中にもリーフレットを入れているので、少しずつ認知度が上がってきているかと思う。

レファレンスの最近の傾向としては、県外の方が山梨県のことを調べるということがとても多い。恐らく、一般的なレファレンスは、今はいろいろなツールがあるため、一般の方が知りたいようなことはインターネットで調べることで満足できているのかと思うが、郷土資料、山梨県に関することで、深く知ろうと思うと、なかなか一般的なツールでは調べられないことから、県外の方からの問い合わせが非常に多いのだと思う。レファレンスの統計を見ても、一般的な内容よりも郷土資料に関することが多く、職員のスキルを高めること、ツールを充実させていくことが必要かと思う。山梨県立図書館の専門性をアピールしていきたい。

委員 リーフレットの配布等、草の根運動的に実施されており、地域資料が県外の方から尋ねられるというのもうなずける。県立図書館がどこの図書館よりも率先しているイメージがあり、評価できるところかと思う。

利用統計を見ている限り、来館者数が増加してきている一方で貸出数は減っているということだが、個人的にはあまり悲観すべきものではないと思っている。新しくいろいろと図書館の広報が増えたことで、今まで図書館を使ってこなかった利用者が、新たに来ている段階であり、図書館の評価として貸出冊数がよく取り上げられるところではあるが、むしろ多様化する利用者ニーズへの対応が現代の図書館に求められるものであると考えると、問題ないかと思う。来館者数が増えているということが大事であり、引き続き読書推進は頑張るとのことだと思うが、今の状態で悲観する必要はない。

議長 ほかにいかがか。

委員 私も同じ意見である。貸出冊数については、コロナ禍の間は図書館自体に長く滞在做りなかつたため、とにかく借りて帰ることがあったと思う。そこから、いろいろな活動が展開できて、図書館の中で活動できるようになり、来館者が増えたことは本当に良かった。

いろいろな年代の方が利用されていると思うが、少子化で子どもの数も減っている中、小さい子ども連れの利用者と年配の方の比率を伺いたい。

事務局 子ども連れの利用者も土日はかなり多い。一方、年配の方は平日の午前中等落ち着いた時間帯が多く、夕方の時間帯になると高校生が勉強しに来館するというように、時間帯や曜日によって利用者層が分かれている。少子高齢化ではあるが、最近急に変化があったとは感じてはいない。土日の児童資料コーナーは非常に多くの来館者があり、特に子どもの利用が減ったということは感じていない。

委員 子どもの数が減っている中で図書館がにぎわっているということは、よく広報されている結果だと思う。時間帯により利用者層が分かれているということで、それぞれの年齢層の方を大事にしてきたということかと思う。図書館は貸出だけではなく、一つの地域やコミュニティーとして横のつながりを作っていたり、地域の基盤として進化したりすることができるのではないかという新たな課題が見えてきたかと思う。

また、7月に韓国のテレビの取材があり、世界のいろいろな図書館事情を紹介するというもので、高齢者が読書活動をすることによって認知機能や生涯学習的な老化予防に効果があるという趣旨だった。韓国語の番組なので詳細にはわからないが、子ども図書館で夏休みにおはなし会を開いたことを取材していただいた。山梨県は読書活動が盛んなため取材に来たということで、全国的に図書館がなくなったり、司書の数が削減されたりしている中で、読書活動がこれからも活発になっていくように頑張ってもらいたい。

議長 ほかにいかがか。

委員 協議会委員の意見を取り入れた広報活動に関して、令和6年度、代読サービスのチラシを県内の診療所、眼科など35箇所に置いたということだが、問い合わせや反応はあったか。

事務局 今のところ問い合わせいただいていない。

委員 35箇所に置かれたということは意義があったと思うので、今後も継続していただいて、県内の盲学校等にもこのようなサービスの広報に努めてほしい。

議長 ほかにいかがか。

委員 県立図書館でいろいろな取組をされており、すばらしいなと毎年感じている。工夫していることを非常に嬉しく思う。山梨県PTA協議会の事務局を務めているが、PTAは子どもたちのためだけでなく、子どもたちも親たちも対象としている。図書館というと、子どもたちが主となっているが、親も子どもも一緒に来て、お互いに本が読

めるというような取組をしていただけないか。例えば、お薦めの本は、親にお薦めの本、子どもにお薦めの本、親子にお薦めの本、として親と一緒に子どもと図書館に来ることによって、家族で行こうという形になる。立地条件も甲府駅のすぐそばであり、駐車場も広く、周りに飲食店もあるので、いろいろな方に来ていただけるようになる。私たちがSDGsの研修会をしているときに、ちらっと見て寄ってみようかという話になるので、そのような効果があると思う。今もいろいろと工夫されていると思うが、もし可能ならば、「親子で」という形のものを取り入れていただけたらありがたい。

また山梨県PTA協議会から、県内の小中学校に情報としてデータを配信することは可能だと思う。いろいろなところで連携しているということは大事だと思うが、いかがか。

事務局 提案いただき感謝する。是非活用させていただきたい。親子で一緒に来館されることは図書館としてもありがたい。平日はなかなか難しいところだと思うが、土曜日、日曜日、祝日等は児童資料コーナーは終日子ども連れの利用者でいっぱい、返却本を載せるブックトラックも、複数並べているが、排架していく端からまた借りられるという状況があり、嬉しく思っている。親子で読書をするという方々も大勢いらっしゃって、たくさん本を借りていってくださるので、今後も更にそれが広がっていくように活動していきたい。是非御協力をお願いしたい。

委員 小学生、中学生を見ていると、小学校高学年と中学生が親と一緒に図書館に来れるか、というところに課題があると感じる。これは非常にハードルが高く難しいことで、私もいろいろな課題等で小学生、中学生と親子で何かしようということを仕組みが、なかなか大変なため、勉強させていただければと思う。

議長 非常に貴重な御意見をいただいたと思う。

子どものスペースに大人向けの本がぼんと置いてあると、読まれたりすることがある。滞在時間がどれくらいなのか、ということも少しヒントになるだろうと思う。小学校の高学年、中学生というのはなかなか親と一緒に行動することは難しいが、何か行動できるようなことがあると良いと思う。

ほかにいかがか。

委員 幼稚園の子どもたちからは、よく図書館に行ってきたよという話を聞く。見ていると、図鑑を引っ張り出して見ている、知識の獲得をしたいという子どもたちの姿がよく見られる。

少々気になるのは、今、外国籍の子どもたちもやはり増えてきているということ。たくさんではないが、日本語が厳しいような親御さんも増えている。

ハードルが高いかと思うが、そういった方々に貸出など行っているか。

事務局 外国籍の方への貸出は、特に目立って多いということはないが、新館開館時に荻野浩さんが外国語の絵本を多く寄贈してくださったので、外国語で書かれている子ども向けの資料は多く所蔵している。子ども読書推進担当でも、今ある言語だけではなく最近の動向について情報を収集し、言語についても幅を広げていこうと本を購入するようにしている。

多文化サービスという図書館サービスのジャンルでは、外国籍の方が日本で生活できるように、日本の物語や日本の生活がわかるような本を提供していくこととともに、外国籍の子どもが母語を忘れないように、その国に戻ったときにそちらの生活になじめるようにという視点も必要だということで、その二つの視点を大切にしながら選書を進めている。

事務局 多言語資料については、利用者等からの要望を受け、今年度も所蔵のなかった新たな言語の絵本や子ども向けの本などの選定を行った。配布資料にも多言語資料の所蔵数を記載しているが、昨年度も目標の数値を概ね達成しており、少しずつだが、様々な要望に応えられるような資料の収集に努めている。

議長 ほかに何かあるか。

委員 都道府県立図書館の統計から、蔵書数を単純に見ると46位ということだが、人口規模で見れば15位ということでもいいかなと思う。

一つお尋ねしたいのは、山梨県立図書館から大体20分くらいの場所に甲府市立図書館がある。一般的な利用者は県立図書館、市立図書館ということあまり意識していないことが多いと思うが、甲府市立図書館と県立図書館で、資料購入の棲み分けの話をするのか、それともそれぞれの図書館で買っているのか教えていただきたい。

事務局 特に甲府市立図書館と資料購入の棲み分けについて具体的に話をするような機会は設けてはいないが、当館の収集方針等を機会があるごとに御案内しており、御理解いただけていると考えている。

委員 了解した。

議長 ほかにいかがか。

委員 蔵書の棲み分けについては、自分が勤務していた市立図書館でも、資料を選書するときに、やはり県立図書館のことは意識して選書するようにしていた。高度なものや、これはセットであるので買おうだろうということを考えながら選書を行っていた。

除籍にするときも一冊一冊検索し、県立図書館にあるので除籍してもいいかなとい

うことを考慮して除籍していたので、おそらく甲府市立図書館もそのように選書しているのではないかと。

議長 市立図書館側の視点から要望等はあるか。

委員 特にない。

委員 子育て支援センターでは0～6歳の子どもがいて、保護者の対応もするのだが、SNSはほぼインスタグラムを使っており、私たちもイベントのチラシを支援センターのインスタグラムに上げている。もしインスタのフォロワーを増やしたいということであれば、QRコードを付けておくと皆さんアクセスしてくれる。

私たちもチラシを作るときに、インスタを使うと、皆さんフォローしてくださっている。

特に0～3、4歳の小さい子どもを連れてくると、泣いたり騒いだりということがあってお母さんたちが行きづらいということがあるが、クレーム等はあるか。また、どのように対応されているのかお聞きしたい。

事務局 小さい子どもが泣き出すことはあり、館が吹き抜けのような造りなので、声が上のフロアまで響くことはあるが、親御さんや職員が駆けつけるため、今まで特にうるさいというクレームを受けたことはない。逆に子どもの泣いている声があるが職員は放っておいていいのか、すぐ駆けつけないと駄目じゃないかと言われたことはある。

また、親御さんがとても恐縮されてしまうようなことがあるが、大丈夫ですよというお声掛けをさせていただいたり、ちょっとした折り紙を渡して気を紛らわせてもらったりということはしている。

子どもが泣いたり騒いだりすることでほかの方からうるさいといわれたことは特にない。走り回ったりして危ない場合に、図書館の中は走ったら駄目だよと注意するくらいで、騒がしさのことで何か言われたということはない。

委員 自分も子育てをしてきて、今のお母さんを見ると恐縮しているようなので、職員もそのように寄り添っているというのを聞いて安心した。

議長 ほかにいかがか。  
よろしければ一言でも御意見をいただきたい。

委員 単純な質問だが、来館者数はどのように把握しているのか。

事務局 北と南の入口に資料の不正持出防止のためのゲートがあり、そちらのセンサーで人が通るとカウントしている。南北両方の入口に設けてあるので、そちらで人数を把握している。

委員 先程話があったように、イベント等で来館するとか、あるいは時間つぶしで中に入ってみるとか、そういうこともカウントされてるということかと思う。そのため、貸出冊数との関係で多いとか少ないということは気にすることはないのではないかと思う。利用者という立場で発言すると、市立図書館もよく行くのだが、新刊書やいわゆるベストセラー等気軽に読めるものは市立図書館の方が多い。詳しく調べたいときには県立図書館を利用している。

それから、いろいろな展示や主催の企画を見ると、県の別の課や、美術館とか博物館との連携の展示等もずいぶん多くなった。

連携でお互いに紹介し合うなど、たとえば、今日は博物館の展示があり、関連の図書を紹介しているが、逆に博物館の方で、今展示しているものについて、県立図書館にある関連図書を紹介できたらそれも面白いかなと思った。

全体として司書の皆さんをはじめとして図書館に携わっている皆さんがとても頑張っていて嬉しく思う。

議長 本当に職員の皆さまの努力がよく窺われて、感謝している。

委員 まずは「広報を考える」という取組について、非常によくまとまっていると思う。現状を見て委員に意見を聞いて、新しい取組の対案を出して、是非今後もこのままPDC Aサイクルを回していただければと思う。

感想としてだが、SNSの活用について、私どもは社会福祉協議会の中に介護の支援センターや保育士、保育所等の施設、あるいは福祉に関する担当があり、やはりSNSを使って情報発信している。私は以前介護関係の介護支援センターで積極的にSNSを利用していたが、やはり傾向としてはフェイスブックよりインスタグラムの方に登録者は集まっていた。ただ、最初は定期的に曜日を決めたり、発信するタイミングを窺ったりしていたのだが、やはり見る方たちがその分野に関心のある関係者しかいなかった。閲覧件数もそれほどではなく、頻繁に発信しても、逆に仕事のための仕事になってしまうので少し減らしていこうと切り替え、ホームページで最新情報を伝えるというベーシックなところに落ち着いた。

それからPRで使うチラシについて、介護関係の講座を年50件程開催しているのだが、県民向けの講座で、毎回チラシ、リーフレットをかなりの数、関係する団体、市町村、いろいろなところに配っていた。ただ、参加する方の中には、そういったチラシを知らないという方も多かった。やはり図書館の場合は、利用者は非常に幅広い世代だと思うが、先入観で関係者に配ってしまうと、既に知っている方たちばかりに届いてしまうので、そうでないところに配って届かせることが必要。

ちなみに、介護の関係で、甲府市が自治会の広報に折込みを行っているのだが、確かに効果は抜群だった。全市でそれをやるのは無理かと思うが、やはりそれだけ情報が行き渡っていないというのを実感している。

また、県立図書館のスペースを借りることがあるが、県立図書館で実施すると非常に参加数が多い。利便性を考えると、全国の県立図書館の中でもそういった点でかなり優位性を担保しているかと思うので、今後会議を県立図書館で開催する方が良いのではという話が出ている。

そのように、本を借りに行くという形以外でも利用できるという図書館の情報が少しでも伝えられると良いと思った。

最後に統計の資料について、山梨県の人口は下から数えて7番目だが、人口10万人あたりの蔵書数を見ると山梨県は15位。人口10万人あたりでは、同じく人口下方圏にいる佐賀、福井、徳島、高知、島根、鳥取に続く蔵書数である。人口が少ない県は皆さん頑張っていて、10万人あたりの蔵書数では、実は随分上にいることがわかる。頑張っているのだが、蔵書数としてはもっとあってもいいのではないか。

議長 蔵書数については、確かに人口の少ないところという視点で見ると、まだ課題があるということが見えてきた。

また、市の広報をうまく利用するということは、新しい視点だと思う。

委員 中学校の国語科の教員をしていたのだが、教科の関係もあり小学校の司書教諭、図書館支援などに携わってきた。

そのような中で、山梨県では学校の司書がしっかり配置されていて、他県の人に話を聞くと驚かれる。以前大会でそのようなことを聞き、実際にデータを見ると、山梨県は就学前の段階、学校の段階から読書に関わっており、恵まれているところだと思っている。県立図書館でもいろいろな取組をしており、いろいろ案内が届くため、司書を介して図書館に置いたり周知してくれたりして、子どもたちも図書館と関わりを持ち、保護者が来たり蔵書数が増えたりしていく、というように進んでいくのではないかと思う。

ただ、中学生くらいになると読書の時間が少なくなるというのが現実としてある。そのような中で、学校でも司書が本当に頑張っていて、教室でも朝読書の活動等をしている。

学校にもよるが、こんな本がありますよ、読んでくださいと薦めていくことが大切である。読書をするということは人間形成にとっても大事であり、読書しないとやはり人生でとても損をしているような気もするので、そのような話をしたり、読書していく中で自分も追体験していろいろな考え方が得られるという話をしたりしている。

若い人は今、フェイスブックもあるがインスタグラムをかなり利用している。いろいろな情報発信をしていただけると、本を身近に感じて、読書率も上がり、心も豊かになっていくと思う。学校でも頑張っていて取り組むので、是非よろしく願います。

議長 最新データでは、小学生の読書量は少し増加したかと思う。これも朝読等の取組のおかげかと思うので、引き続き県立図書館と連携できるところはしながら、子どもたちの読書量を増やしていけたらと思う。

全員の委員から御意見をいただいたが、重ねてなにか御意見があれば伺いたい。

委員 要望だが、イベントスペースや多目的ホールを使用しているが、Wi-Fi環境が厳しく、オンラインでもっとつながりやすいと良いとよく話している。大変なのかもしれないが、そういう意見もあるのでよろしくお願いします。

議長 Wi-Fiについては是非御検討をお願いしたい。Wi-Fiを十分に使えるかということは、場所選びのポイントにもなってきているので、是非よろしくお願いします。

議長 ほかにはよろしいか。

本日も本当に多くの御意見をいただき良かった。様々な意見が出る中で、図書館は多角的に我々の意見を受け止めて、広報を非常に効果的に取り組んでいる。図書館で考えて実践したことの報告を受けることで、関係が見えてきて、本当にありがたい。これでこそ協議会をやる価値がある、意義があると思っている。

PDC Aサイクルという話もあったように、広報としてこういうことを実施した、ではどういう効果が出たかというような、効果のところを今後も見えていくと、次には新しい提案ができ、キャッチボールが始まっていくと思うので、是非お願いしたい。

それから、地域のレファレンス・サービスが少しずつ伸びている、特に県外の方が利用されているということだが、これは是非進めていただきたい。山梨ならではの情報を県立図書館は持っているはずなので、そこが売りになると思っている。全国どこでも受けられるサービスも是非提供していただきたいが、山梨ならではのところも是非お願いしたい。県外の人だけでなく、県内の人も再発見という形で地域のことを知っていただければと思う。その際には県立博物館も様々な資料を持っていて、専門家もいると思うので、タイアップをされると良いと思う。

それから、外国籍の子どもに向けての図書が整備されているかという質問、意見があったが、充実化に向けて努力されているということで安心した。外国籍の子どもたちには、言葉の壁がある。特に保護者で日本語があまり堪能でない御家族もあるかと思うが、そういう人たちにどのように情報が届くか、届けられるかということも一つ課題になっていくと思う。また関係の方々から御意見をいただくなどして適宜その方々にメッセージが届くようにと思う。

本当に様々な意見をいただき、報告書は今後まとめに入っていくことになるが、様々な御教示いただき、本当に感謝している。意見もほぼ出尽くしたかと思うが、よろしいか。

ではこれにて協議を終了する。こちらの報告書については、再修正ということになるかと思うが、まとめ次第、各委員に送付をお願いします。

各委員の確認を得た後に、これをもって当協議会報告書とさせていただきます。

それ以降のことについては、恐れ入るが、会長に御一任くださるか。

(了解)

では議題の(1)(2)を閉じさせていただき、その他の方に移るが、委員から何かあるか。

(特になし)

それでは以上で終了とする。これをもって、議長の任を解かせていただく。御協力に感謝する。